ONE-POINT ADVICE

「シーガー使って今日も快釣」

女良圭佑のワンポイントアドバイス

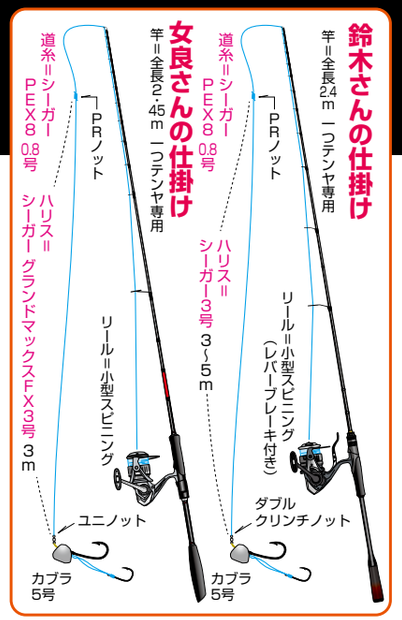
★女良さんのハリスは「シーガーグランドマックスFX」3号。『シーガーグランドマックスFX』を選んだのは「根周りを攻めるので耐摩耗性に優れた根ズレに強いことと外房ではこの時期に大ダイが釣れていたり、青物などのゲストが交じることも想定されるため、細いながらも強度に優れたハリスが求められるからです」と女良さん。

シーガーグランドマックスFX 3号 60m巻

◆0.3～10号まで19アイテムを用意。価格は3200～6000円（税別）

シーガーPE X8 号 200m巻

◉同社PEシリーズで最も伸びの少ないグランドマックスPEを使用した8本組の高強力&高強度PEラインで、コストパフォーマンスにも優れている。
◆0.4～6号までの12アイテム、150～400m巻きを用意(400m巻きは2、3、4、5号のみ)、価格はオープン
▶ハリスとカブラの接続はユニノット



▲タイラバでもこのとおり

◉道糸の出が止まるとアタリ

▲船下に仕掛けを落とし込んでいく

◀ドラグは1キロ前後に設定してヤリトリする

▼親と孫バリの2本とも掛かる、理想的なハリ掛かり

▲フォールで0.5キロ級を上げた

▶アベレージは0.3～0.5キロ級

◀40センチ級のハナダイを釣り上げてフィニッシュ

★女良さんは0.3～0.5キロのマダイを8枚キャッチ

★鈴木さんは後半に数をのばした

▲釣り場は大原～岩船沖の水深10～15メートル前後

★強さと耐摩耗性に優れるシーガーグランドマックスFXなら余裕を持ってヤリトリできる

▲女良さんはシーガーグランドマックスFXを使用、ユニノットでカブラに結ぶ

▶エサは冷凍エビ。二人とも自作のカブラを持参

Challenge #79
外房大原港出船の一つテンヤ

釣れる釣れるは糸次第

鈴木新太郎、女良圭佑 外房の一つテンヤを楽しむ

◉秋の数釣りシーズンに突入し、トップ2ケタも珍しくない釣れっぷりで盛り上がりを見せている外房大原の一つテンヤ。今回は鈴木新太郎さんが女良圭佑さんをともない外房大原のマダイ釣りを楽しんだ模様をお届けしよう。

9月上旬に乗船したのは外房大原港の長福丸。数日前から0.3～0.5キロ前後を主体に2～4キロ級交じりでトップで2ケタの釣りが続いているだけに鈴木新太郎、女良圭佑（めらけいすけ）の両氏はいつになく気合が入っているようだ。

右胴の間に鈴木さん、トモに女良さんの順で座り準備に入る。

二人とも道糸は「シーガーPEX8」0.8号。女良さんが選んだハリスは「シーガーグランドマックスFX」。

「いつもは2.5号を使いますが、良型マダイが釣れること、ワラサなど引きの強いゲストが交じるため、ハリスの強度が重要となります。そこで今回は3号にしました」と女良さん。

鈴木さんは「シーガー」3号。

「道糸とハリスの強さがバランスよくなるようにラインシステムを組んできました。PRノットで道糸と接続していますが、『シーガー』3号は十分な強度があるので大ダイにも対応できます」と鈴木さん。

4時15分に出船。30分ほど走って大原沖の水深15メートルのポイントに到着。潮が流れていないせいか、船を風にうたせた横流しで釣りを開始。

最初に竿を曲げたのは女良さん。

「フォールできました。小さいですね」と言いながら0.3キロ級のマダイを取り込んだ。その後もキャストしてカーブフォールでアタリをとらえて0.4キロ級を追釣。一方の鈴木さんは、アタリはあるものの、合わせても空振りすることがしばしば。たまに釣れてもリリースサイズでペースをつかめない様子。

しばらくしてアタリが遠くなったので岩船沖へ移動、水深11メートルで再開となる。潮が流れているので今度はパラシュートアンカーを入れる。

岩船沖は根が荒く、キャストすると根掛かりしやすいため、女良さんは船下に5号のカブラ落とし込む。着底したらすぐに糸フケを取り底を切り、その位置でアタリがなければ竿をシャクリ上げてゆっくり落とし込む。するとフォールのアタリを取って0.3キロ、0.4キロと立て続けにマダイを上げる。

鈴木さんも船下に落とし込んでいく。竿を上下しながら余分に道糸を出し、海面に道糸が円を描くようにして、糸が止まったらアタリと判断して合わせを入れ0.3キロのマダイをキャッチ。

「シーガーPEX8は視認性のいい新ピッチマーキングを採用しているので道糸の動きがとても分かりやすいです」と鈴木さん。

その後は二人同時に竿を曲げることも何度かあり、最後の流しで女良さんが40センチ級のハナダイを釣り上げたところで11時に沖揚がりとなった。

この日は全般的に食いは今一つで、「もっと早く潮が動き出してくれれば」と残念がる鈴木さんに、女良さんも相づちを打つ。近いうちに大ダイ狙いの再戦を誓って岩船沖を後にした。

◉Presented by Kureha Gohsen　問い合わせ／クレハ合繊(株)☎0282・82・6133

◉取材協力／外房大原港 長福丸 ☎0470・62・0603（詳細は巻末の情報欄参照）